

たざわ
田沢川水系河川整備基本方針

平成14年3月

北 海 道

たぎわ
田沢川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	2
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
田沢川水系流域概要図	6

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域の概要

田沢川水系は北海道南西部に位置し、その源を江差町と厚沢部町の町界の山地（標高426m）に発し、支川真狩川を合流させ、江差町字田沢町市街地を貫流し日本海に注ぐ幹川流路延長 9.9km、流域面積 14.3km² の二級河川である。

なお、河川名の由来は、一説によると、アイヌ語で「下の水汲み場」という意のタサワによると言われている。

田沢川流域を抱える江差町は、檜山支庁の南部に位置し、豊かな自然環境に恵まれ、多くの歴史・文化遺産を持つ町である。

約 800 年の歴史を有する江差町は、1189 年、源頼朝が奥羽を制したとき、藤原泰衡の一族がこの地に逃れてきたのがはじまりと伝えられ、北海道の発祥の地といわれている。

松前藩政時代から明治に至るまで、江差港は日本海航路における北海道の主要な港として、北前船によるヒノキ材やニシンの交易が盛んに行われ、「江差の 5 月は江戸にもない」ともいわれるほどの賑わいをみせていた。現在でも、当時の文化・風俗を体験することが出来る「姥神大神宮渡御祭」や「江差追分大会」などのイベントの他、ニシン漁最盛期時代を今に伝える「旧中村屋」、「横山家」など歴史的建造物が数多く残り、多くの観光客を集めている。このため江差町では、これらを利用した「歴史を生かすまちづくり事業」により、歴史的・文化的建造物を生かした個性的なまちづくりを進めている。

田沢川流域は、江差町の経済・産業・観光にとって重要な国道 227 号線が河口部を通り、近年、宅地造成により住宅が増加し、さらに温泉、高齢者保養施設が隣接するなど、江差町における重要な社会基盤を形成している。

(2) 治水の現況

田沢川水系は、下流市街地区間は過去の改修により直線的な河道となっており、それより上流は緩やかに蛇行する自然河川の趣を呈しているが、現況の流下能力が不足しているため、平成 7 年から平成 10 年まで 4 年連続した大雨により氾濫し、家屋、農地等に多大な被害を受けている。特に平成 7 年の洪水では、下流市街地区間において浸水家屋 47 戸、冠水耕地約 7ha にも及ぶ大きな被害が発生した。江差町は平成 9 年に応急対策として、国道から上田沢橋までの区間を植生土のうによる護岸の嵩上げを行ったが、平成 10 年にも、市街地区間の一部で溢水氾濫が起きている状況である。

(3) 河川の利用の現況

田沢川の河川水は、約 30ha のかんがい用水として利用されている。

河川利用については、田沢川に隣接する公園を地域住民が憩いの場、散策の場として利用している。また、地域の子供達が川遊びを通じて、田沢川の自然とふれ合っている。

(4) 流域の自然環境

流域内の土地利用状況は約 95%が山地であり、下流部には市街地が形成されている。流域の地質は、古生代の砂岩・粘板岩の互層及び新第三紀の泥岩・硬質頁岩等、主に堆積岩が分布している。気候は、北上する対馬海流の影響をうけて北海道内では比較的温暖であり、江差町の年平均気温は約 10℃である。年平均降水量は約 1,400mm であり、道内では比較的降水量の多い地方である。また、冬期間の海岸部では「たば風」といわれる季節風が強く、道内でも有数の強風地帯であり、積雪は沿岸部で少なく、山間部が多いという特徴がある。

大千軒^{だいせんげん}山地の北端に位置する上流部は、エゾイタヤ、シナノキといった本道南部の代表的な広葉樹林に、ヒノキアスナロが混じる針広混交林が広がる。これら自然林が川沿いまで迫る急峻な谷地形の間を、大きく蛇行しながら流れる。崩壊した河岸の影にヤマメが、礫底にハナカジカが生息し、これら魚類を狙うカワセミの姿が見られる。

農地として利用される平野部を抱える中流部は、平野部の中を瀬・淵を形成しながら緩やかに蛇行して流れ、ウグイが瀬・淵の広範囲に生息している。河岸はオオイタドリ群落が広く分布し、オノエヤナギなどの河畔林が混じることもあり、その河畔林からはモズの鳴き声が聞こえ、のどかな田園風景を呈している。

江差町宇田沢町の市街地を貫流する下流部は、河岸は直線的な護岸に被われ、宅地と河道の間はオオヨモギなどの草地である。湾曲部には河原が形成され、河原上にはツルヨシなどの植生が生育し、水際の草地の影にイトヨが、砂質の底泥部にはウキゴリが生息している。河原ではハクセキレイが餌を求めて歩き回り、草地からはカワラヒワのさえずりが聞こえる。

河口部では、河床は砂質で平瀬化しており、海岸段丘上にハマナス、ハマヒルガオなどの海浜植物群落が広がる。汽水域であり、汽水魚のビリンゴ、アシシロハゼが生息し、それらを狙ってアオサギなどが集まっている。

水質については、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定を受けていないが、平成 12 年の調査によると、すべての区間において BOD 値が 0.5mg/l 以下と環境基準の AA 類型相当であり、良好な水質を保持している。

(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、田沢川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川との計画規模の整合を図りつつ、河道の掘削等により河積を増大させ、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図るものとする。

河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全に関しては、河川の利用状況や水量・水質の実態を踏まえ、関係各機関との調整を行い、河川が適正に利用されるよう秩序ある維持に努めるものとする。また、河川環境の整備と保全にあたっては、良好な水質の保全や動植物の生息・生育状況を踏まえた適切な保全措置を行うなど、市街地における景観等に配慮しながら、良好な河川環境の保全と整備に努めるとともに、地域住民と河川との豊かなふれあいの場の確保を図るものとする。

河川の維持・管理については、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等、総合的な観点から、必要な措置を講ずるなど、適切な実施に努めるものとする。

また、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供、共有することなどにより、河川と流域住民とのつながりや流域連携の促進及び支援、河川愛護精神の醸成、環境教育の支援並びに住民参加による河川管理を推進するものとする。

なお、以上の実施にあたっては、地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、平成 7 年 8 月の洪水を考慮し、町道^{たざわ}田沢橋基準地点において 160m³/sとする。

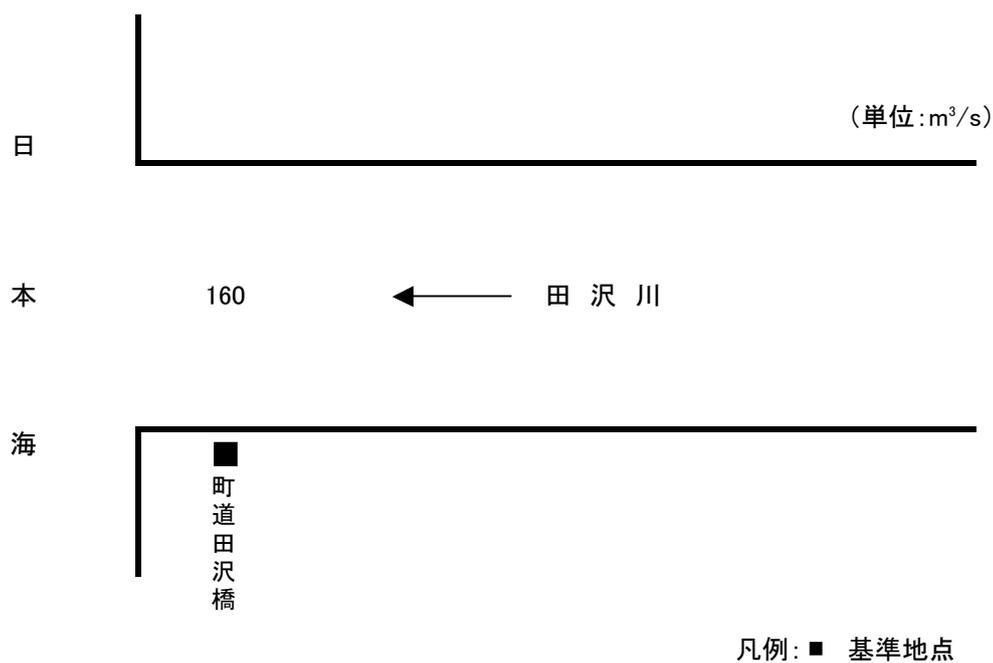
基本高水のピーク流量一覧表

(単位:m³/s)

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
田沢川	町道田沢橋	160	—	160

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

田沢川における計画高水流量は、町道田沢橋地点において 160m³/s とする。



計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

田沢川水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

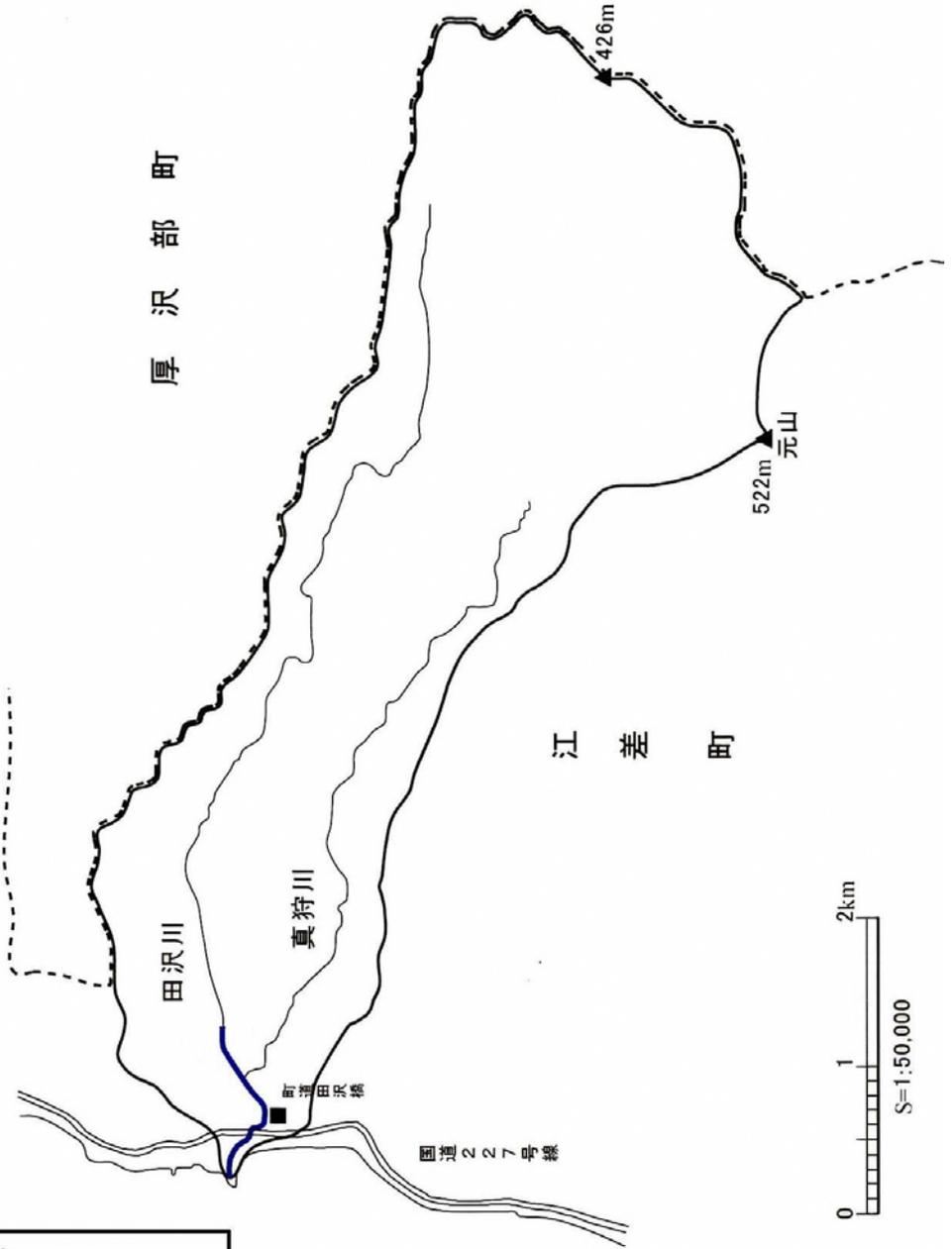
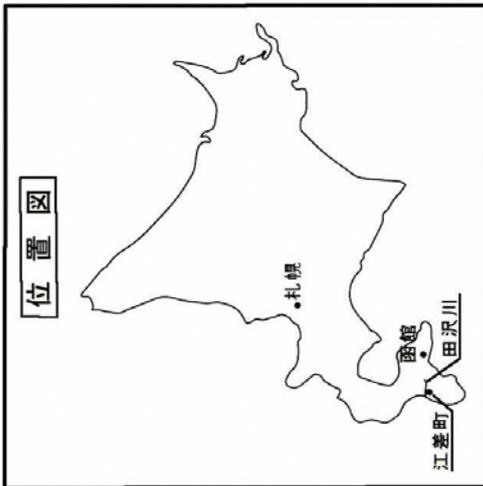
河川名	基準地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P(m)	川幅 (m)
田沢川	町道田沢橋	0.45	2.99	45

(注) T.P.: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

田沢川における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の河川状況の把握を行い、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し、調査検討を行ったうえで、定めるものとする。

田沢川水系 流域概要図



凡例	
■	基準地点
□	流域界
---	町村界